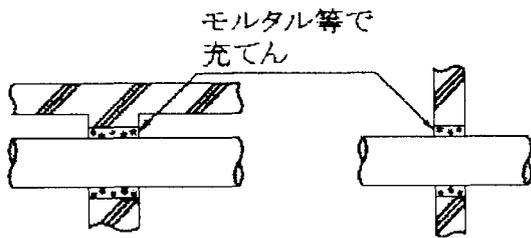
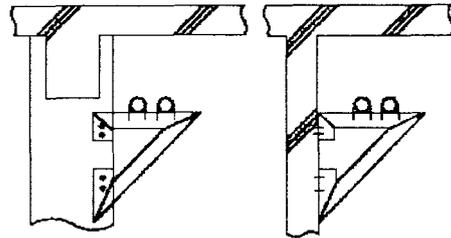


# 参 考 图

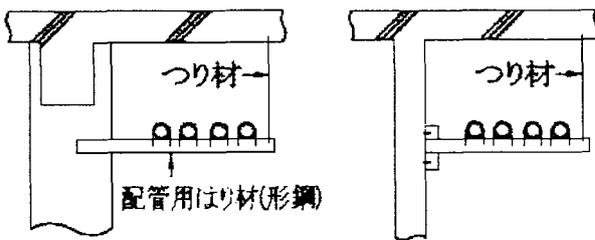
1 配管類耐震処置 (1)



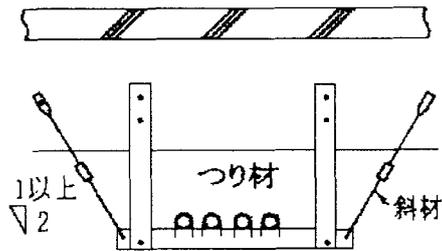
a) はり・壁等の貫通部



b) ブラケット支持する方法

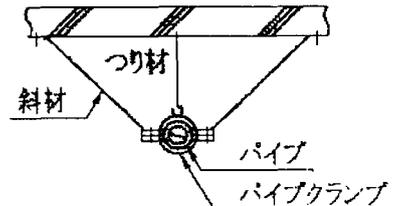
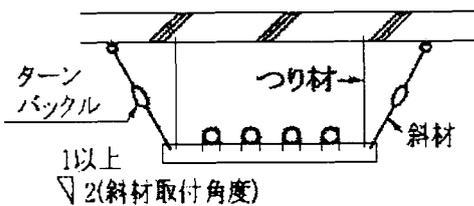


c) 柱・壁等を利用する方法



d) はりや天井スラブより  
つり下げる方法

A種耐震支持の例



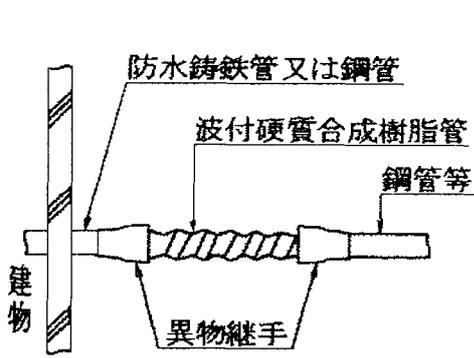
水、油配管の場合

斜材は、吊り材と同等以上の部材とする。  
はりや天井スラブよりつり下げる方法

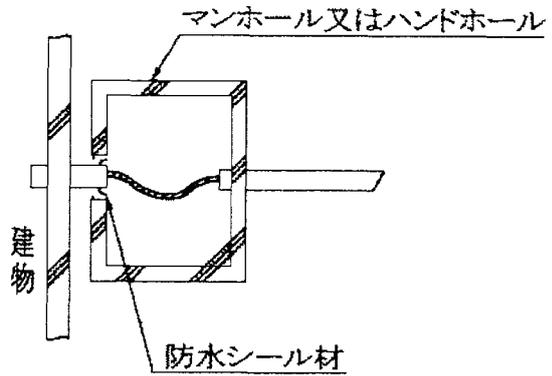
B種耐震支持の例

[参考] (1) 原則として支持間隔は約8mとし、A種又はB種の耐震支持を行う。

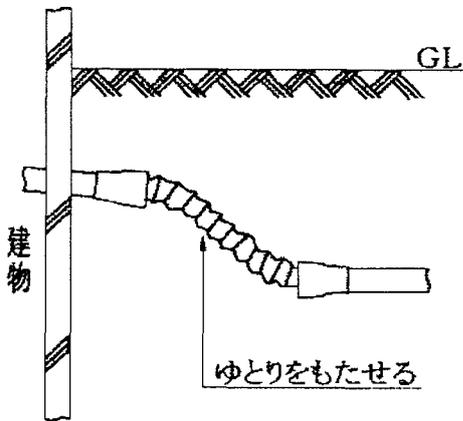
2 配管類耐震処置 (2)



(平面)

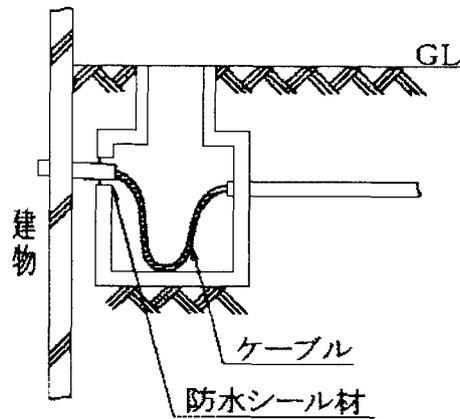


(平面)



(断面)

波付硬質合成樹脂管使用の場合  
(FEP方式)



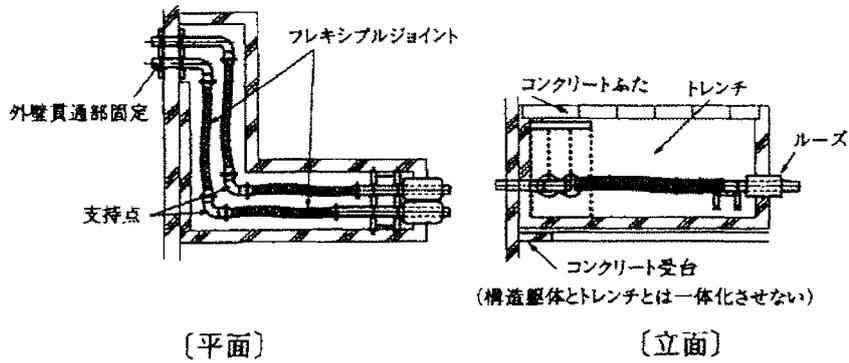
(断面)

地中箱使用の場合  
(地中箱方式)

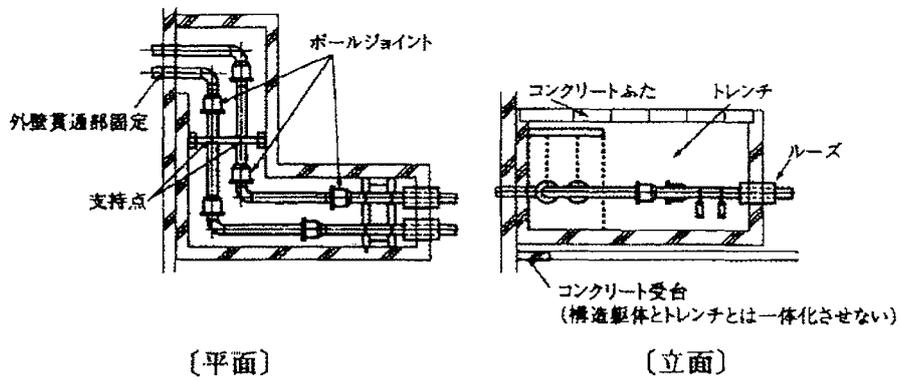
- [備考] (1) 建物への電気配管引込部に適用する。  
 (2) 方式及びマンホール・ハンドホールは、特記又は図面による。  
 (3) マンホール・ハンドホール内では、配線に余長を見込む。

3 配管類耐震処置 (3)

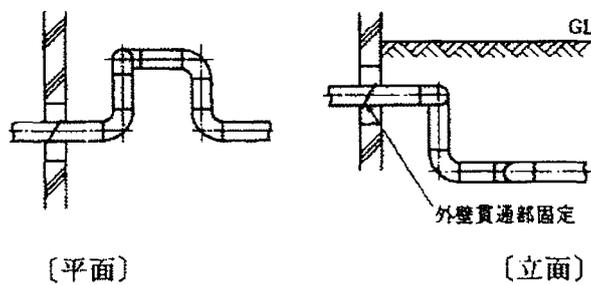
(a) フレキシブルジョイントを使用



(b) ボールジョイントを使用

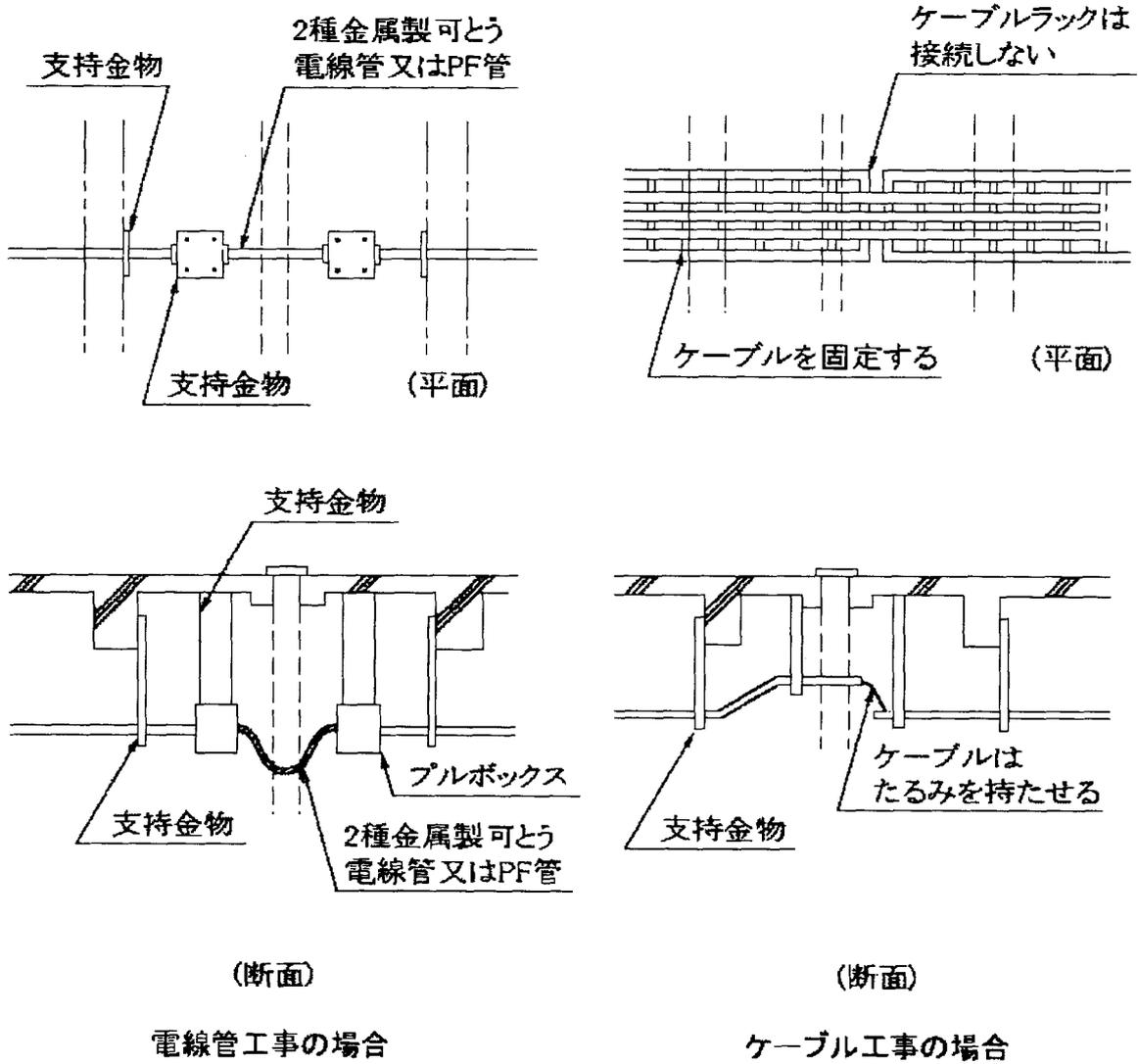


(c) スリークッション



- [備考] (1) 建物への配管 (水、油等) 引込部に適用する。  
 (2) 方式及びトレンチは、特記又は図面による。

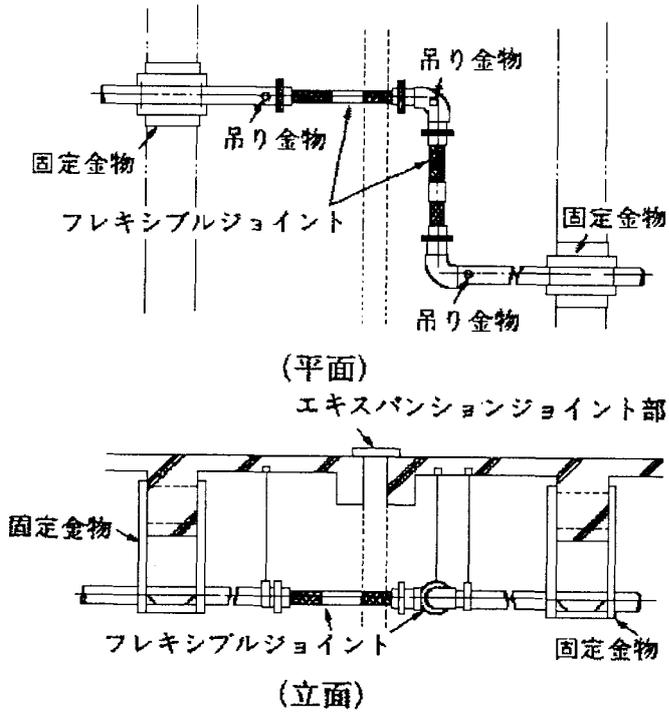
4 構造物伸縮箇所電気配線



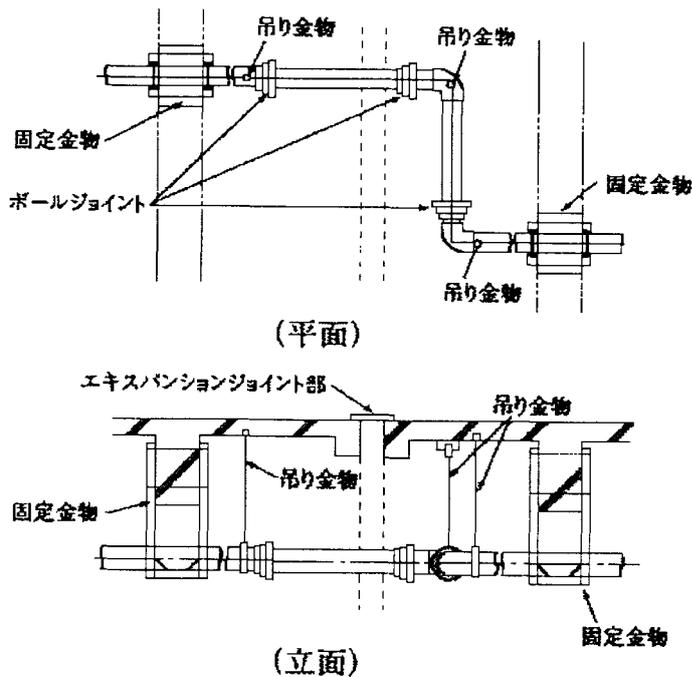
- [備考] (1) 構造物のエキスパンジョイント部分の電気配線に適用する。  
 (2) プルボックスは、特記又は図面による。

5 構造物伸縮箇所配管類（水、油等）

(a) フレキシブルジョイントを使用する場合



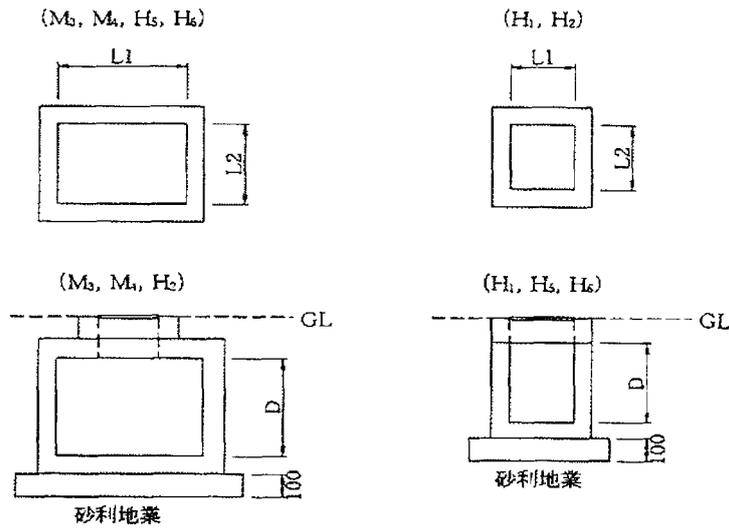
(b) ボールジョイントを使用する場合



[備考] (1) 構造物のエキспанションジョイント部分の配管に適用する。

(2) 方式は、特記又は図面による。

6 組立式マンホール・ハンドホール

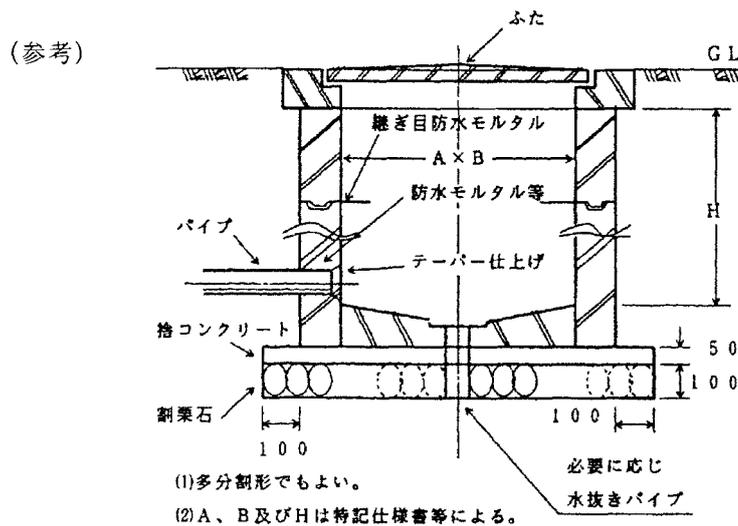


(注) 図は、各部の寸法を示すためのもので、形状を指定するものではない。

各部の寸法

記号	有効寸法(内部)			構造体標準厚さ		
	L1	L2	D	側面	底面	
ハンドホール	H <sub>1-s</sub>	600	600	600	60	80
	H <sub>1-a</sub>	600	600	900	60	80
	H <sub>2-s</sub>	900	900	600	70	90
	H <sub>2-a</sub>	900	900	900	70	90
	H <sub>5</sub>	800	400	650	80	90
マンホール	H <sub>6</sub>	1,200	600	900	100	100
	M <sub>3</sub>	1,800	1,000	1,500	150	200
	M <sub>4</sub>	2,300	1,300	1,500	150	200

(注) L1, L2は、±5%以内、Dは最小値とする。

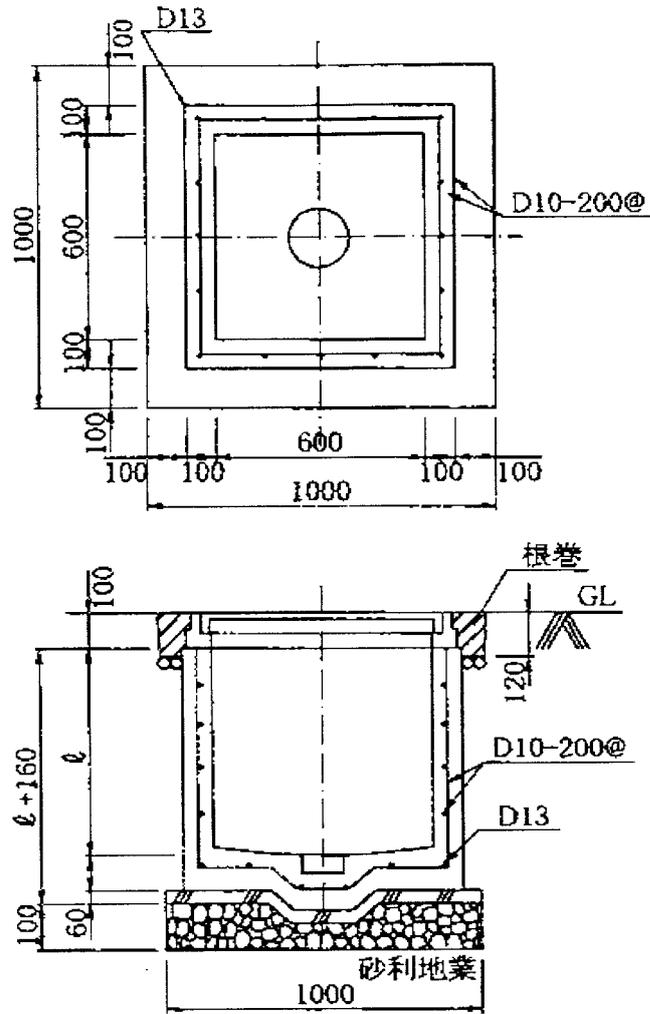


[備考] (1) 構成は、一体形又は多分割形のいずれか選択とする。ただし、多分割形の場合は各部分が容易にずれないように、モルタル又はエポキシ系樹脂接着剤等により、堅固に一体化する。

(2) 配管用ロックアウトを有するほか、マンホール内には、支持金具、ボルト、ケーブルフックを、ハンドホール内には、インサートを設ける。

7 現場打ハンドホール (1)

[単位 mm]



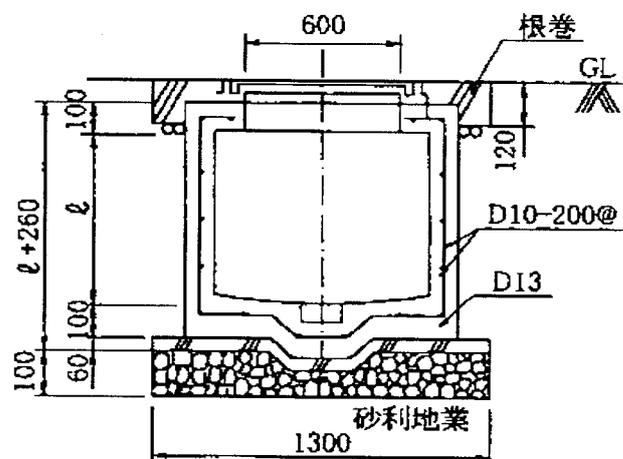
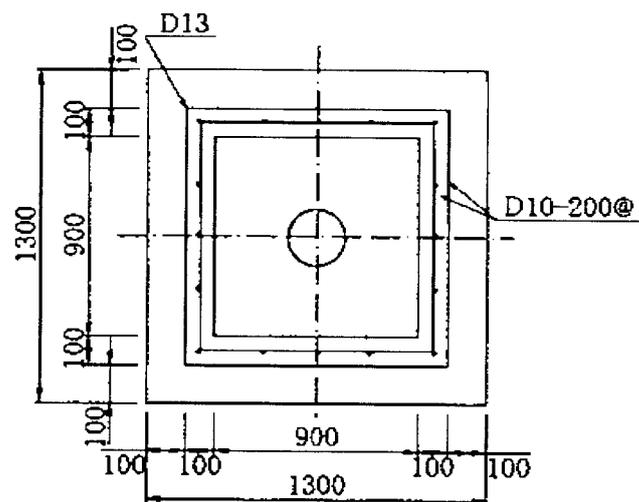
種 別	ℓ
H <sub>1</sub> -5	600
H <sub>1</sub> -9	900

[備考] (1) 配筋のつなぎ方法は、重ね合せ40D以上とする。

(2) ブロックハンドホールを使用してもよい。

8 現場打ハンドホール (2)

[単位 mm]

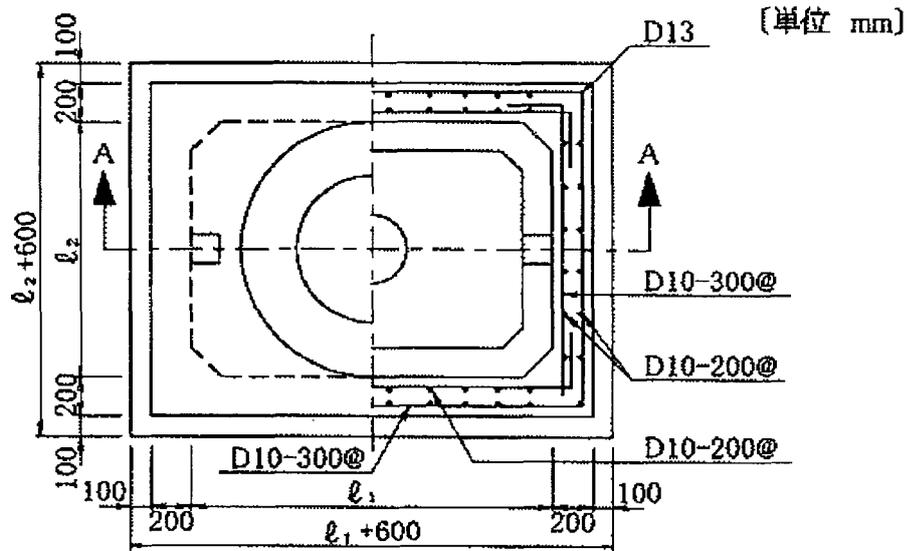


種 別	$\ell$
H <sub>2-6</sub>	600
H <sub>2-9</sub>	900

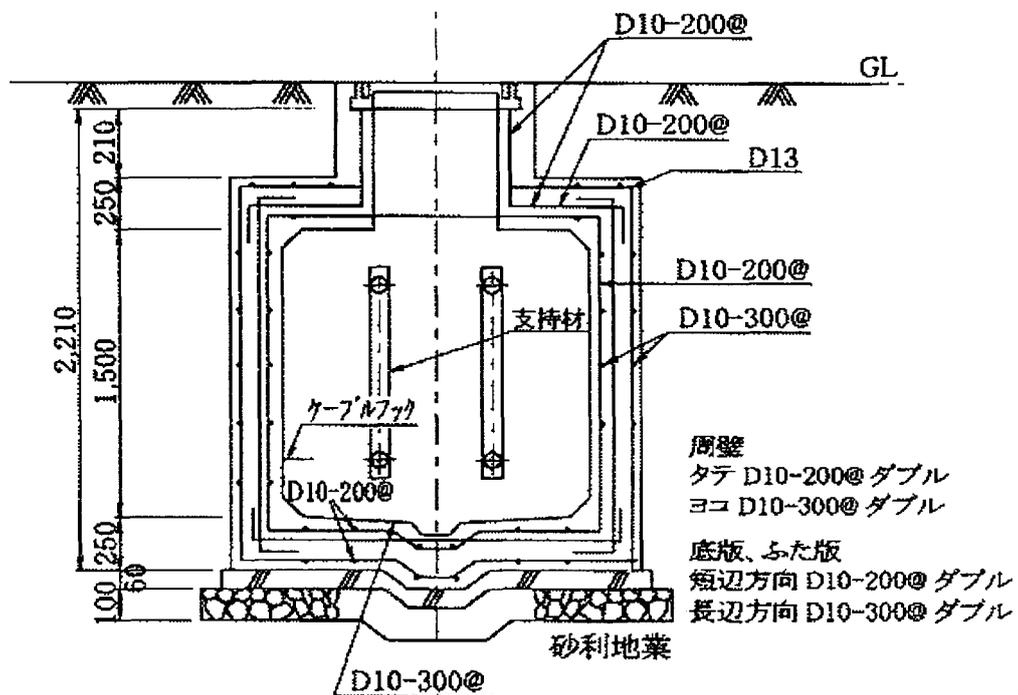
- [備考] (1) 配筋のつなぎ方法は、重ね合せ40D以上とする。  
 (2) ブロックハンドホールを使用してもよい。

9 現場打マンホール (1)

M1



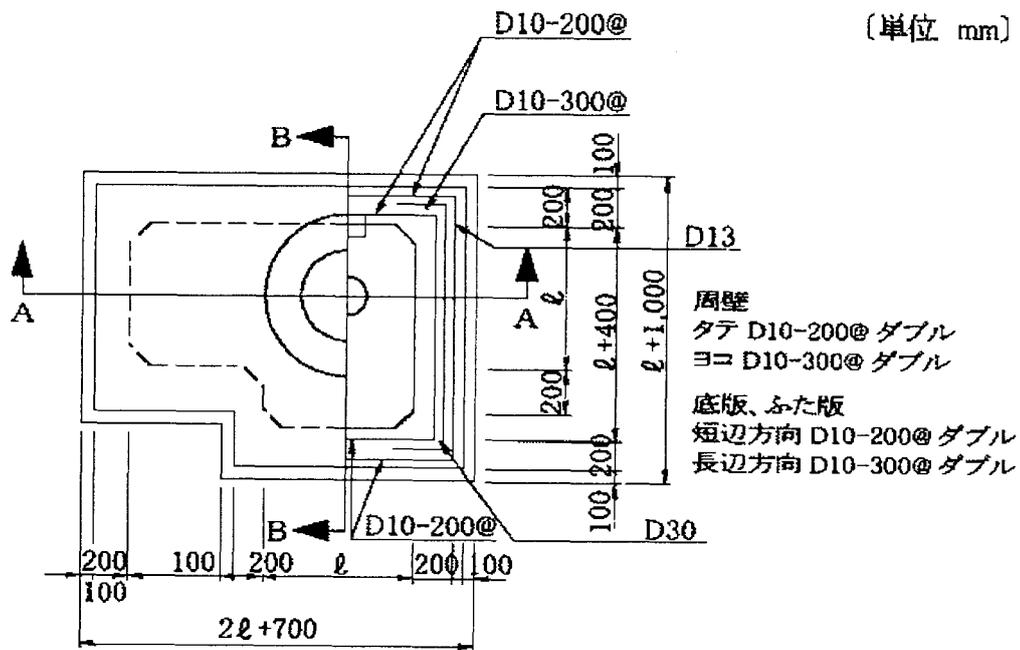
平面図



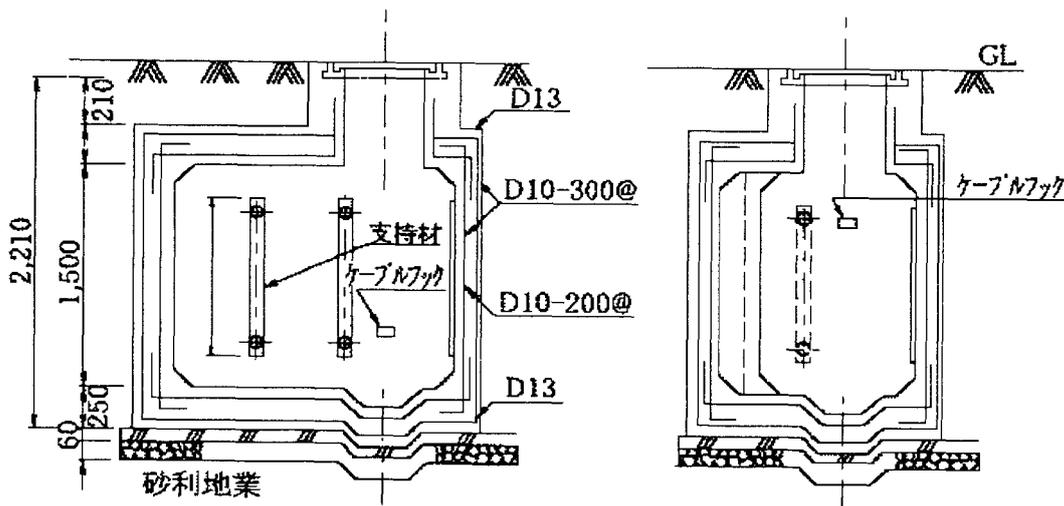
A-A断面図

- [備考] (1) 内法寸法  $\ell_1$ 、 $\ell_2$  は、特記による。
- (2) 配筋のつなぎ方法は、重ね合せ  $40D$  以上とする。
- (3) 内面コーナーは、直角でもよい。
- (4) 鉄ふたは、S2K-75又はS8K-75を適用するものとする。

M2



平面図

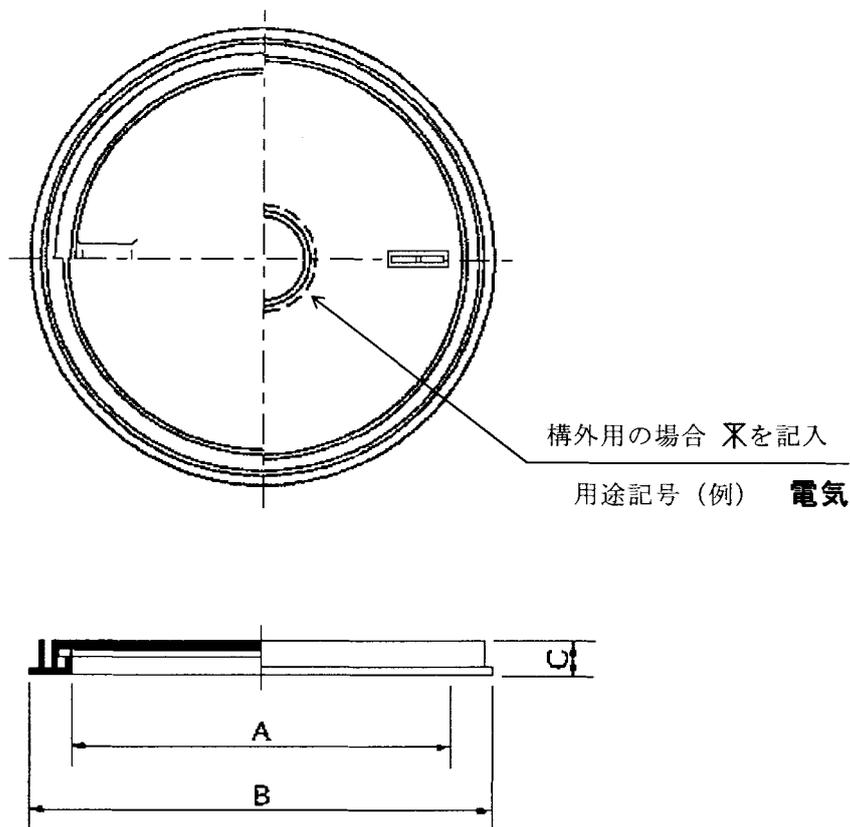


A-A断面図

B-B断面図

- [備考] (1) 内法寸法ℓは、特記による。  
 (2) 配筋のつなぎ方法は、重ね合せ40D以上とする。  
 (3) 内面コーナーは、直角でもよい。  
 (4) 鉄ふたは、S2K-75又はS8K-75を適用するものとする。

11 鉄ふた (1)

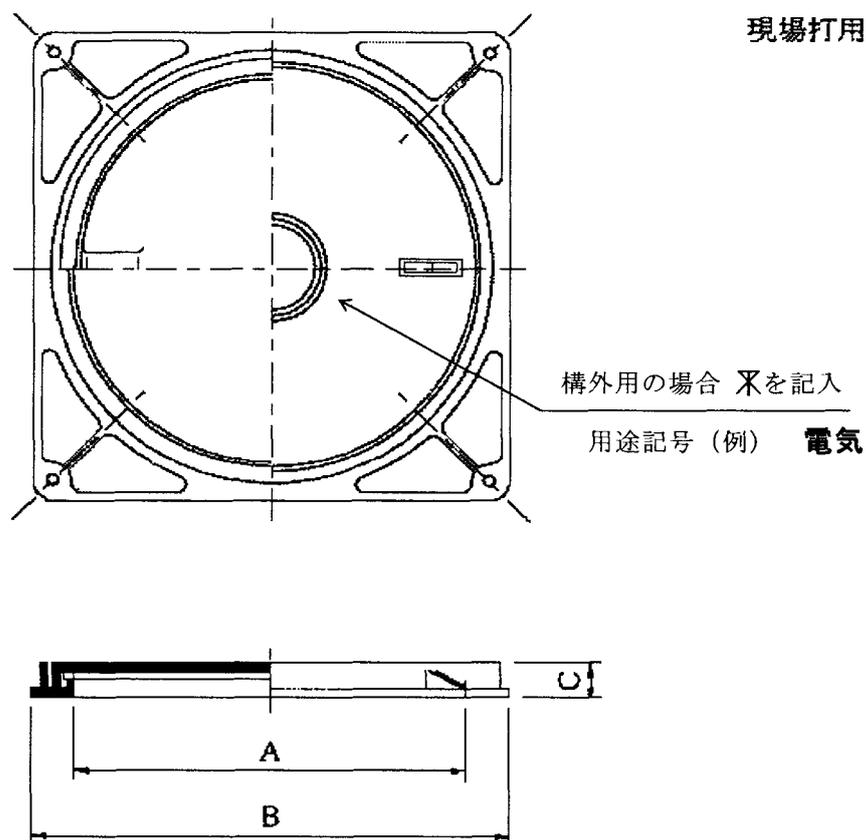


[単位 mm]

記号	寸法		
	A	B	C
R2K-60	600	690~730	45~60
R2K-75	750	860~910	50~60
R8K-60	600	700~740	50~65
R8K-75	750	860~910	55~65

- [備考] (1) ふた中央部に直径150φの加圧面で耐荷重試験を行ったとき、R2Kの破壊荷重は20kN以上、R8Kの破壊荷重は80kN以上とする。
- (2) 原則として、簡易防水形とする。
- (3) 本体又は枠と、ふたを鎖で連結する。
- (4) ふたは、リブ付きでも、リブなしでもよい。又、ふたの表面はすべり防止を考慮したものである。

12 鉄ふた (2)



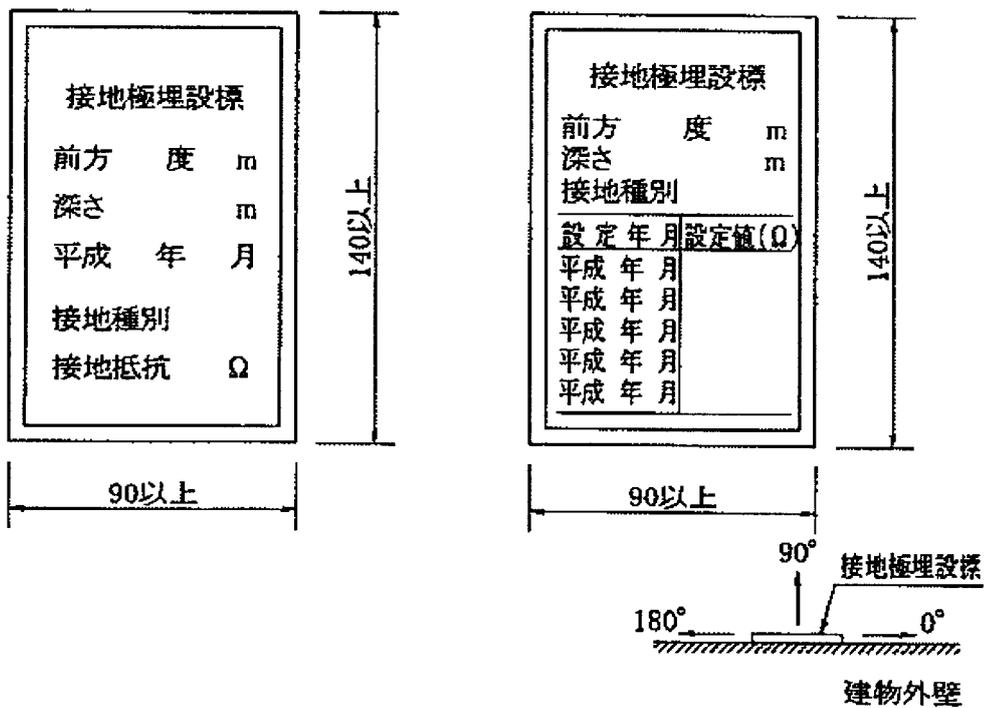
[単位 mm]

記号	寸法		
	A	B	C
S2K-60	600	680~720	45~60
S2K-75	750	860~900	55~70
S8K-60	600	700~730	50~65
S8K-75	750	860~900	55~70

- [備考] (1) 現場打用に適用する。
- (2) ふた中央部に直径150φの加圧面で耐荷重試験を行ったとき、S2Kの破壊荷重は20kN以上、S8Kの破壊荷重は80kN以上とする。
- (3) 原則として、簡易防水形とする。
- (4) 本体または枠と、ふたを鎖で連結する。
- (5) ふたは、リブ付きでも、リブなしでもよい。又、ふたの表面はすべり防止を考慮したものとする。

1.3 接地極埋設標

[単位 mm]

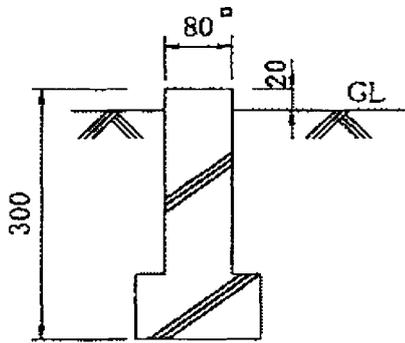


- [備考] (1) 原則として黄銅板製で厚さ1.0mm以上のものとする。  
 (2) 文字は、腐食加工とする。  
 (3) 必要数字及び種別は、刻記による。  
 (4) 角度は、上図によって表示する。  
 (5) 図は、一例を示し、いずれでもよい。  
 (6) 接地種別の記号は下記による。ただし電力設備において、共同接地の場合は、その該当種別のすべてを表示する。又、通信設備において、次以外の場合はE<sub>T</sub>と表示する。

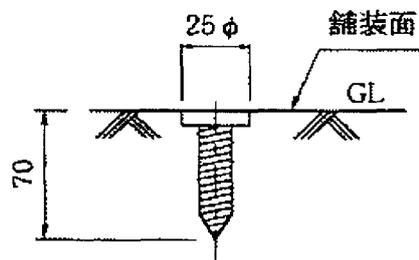
接地記号

接地工事の種類		記号
A種	接地工事	E <sub>A</sub>
B種	接地工事	E <sub>B</sub>
C種	接地工事	E <sub>C</sub>
D種	接地工事	E <sub>D</sub>
高圧	避雷器	E <sub>LH</sub>
低圧	避雷器	E <sub>LL</sub>
避雷設備		E <sub>L</sub>
構内 交換機	陽極	E <sub>t</sub>
	本配線盤の保安装置	E <sub>A t</sub>
電話引込口の保安器		E <sub>D t</sub>
拡声用増幅器		E <sub>D a</sub>

[単位 mm]



コンクリート製



鉄製

(舗装の場合に限る)

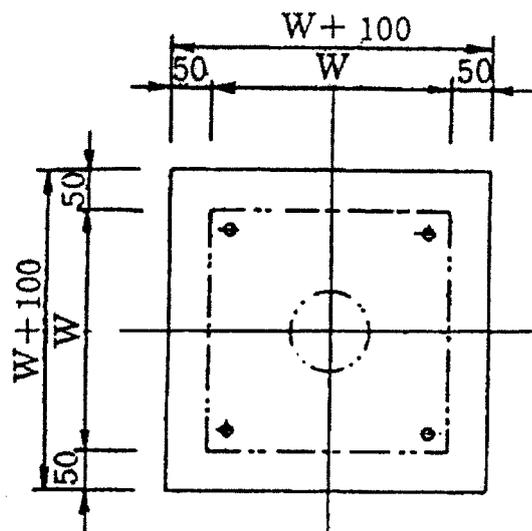
(図は舗装してない場合を示し  
舗装した場合は、舗装面に合  
わせる。)



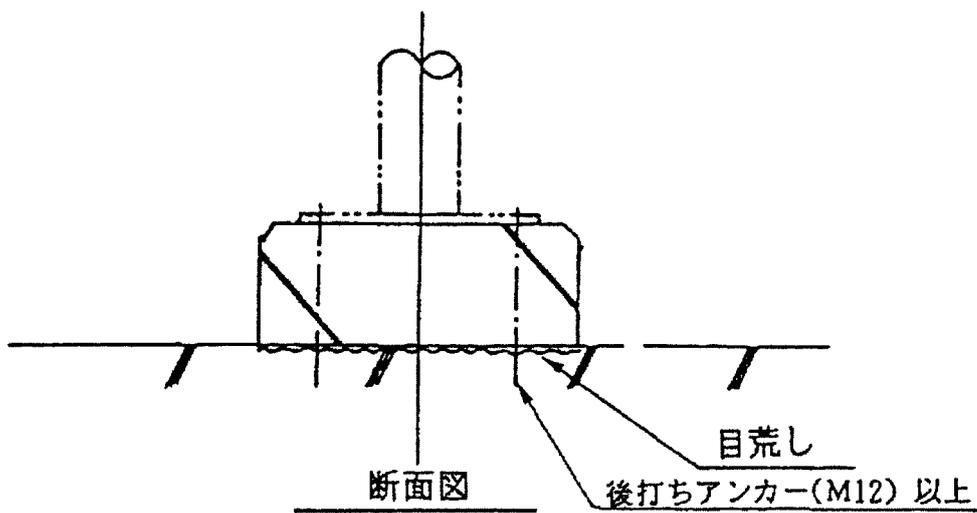
矢印

「備考」 頭部には、図示の矢印を表示する。又、矢印の色は、赤色とする。

1.5 現場制御盤等のスラブ床上据付図



平面図

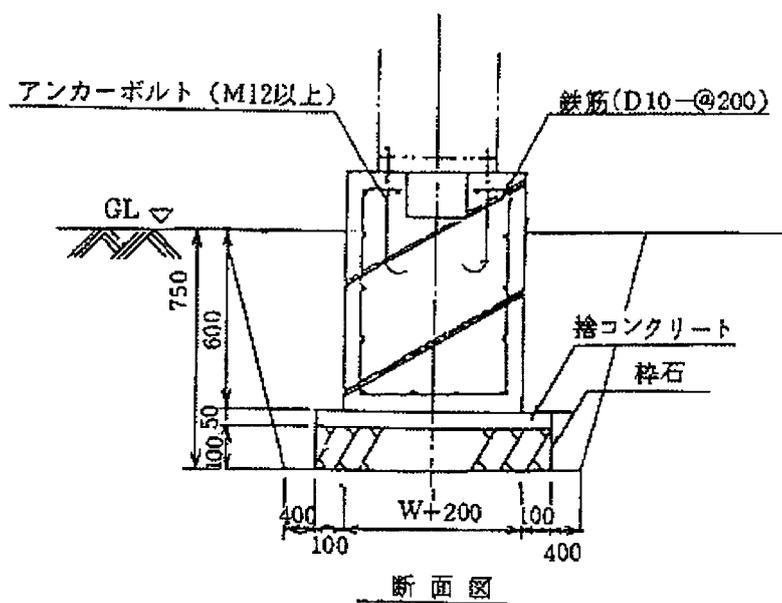
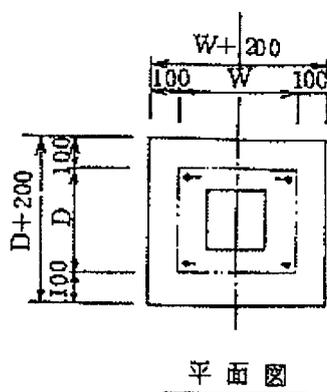


断面図

現場打ち基礎

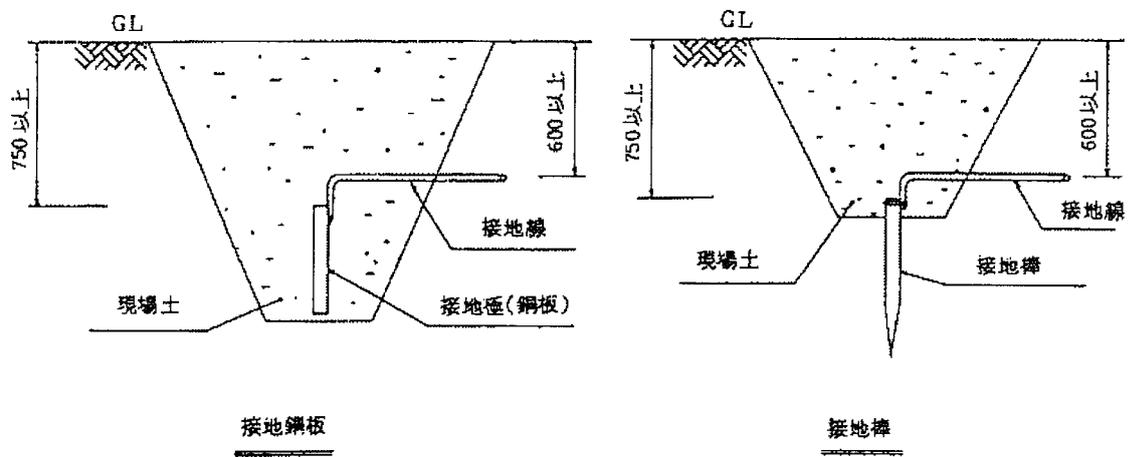
- [備考] (1) モルタル仕上げを行うこと。  
(2) ボルトサイズ及び本数は、耐震を考慮して決めること。

1.6 現場制御盤等の屋外地上据付図



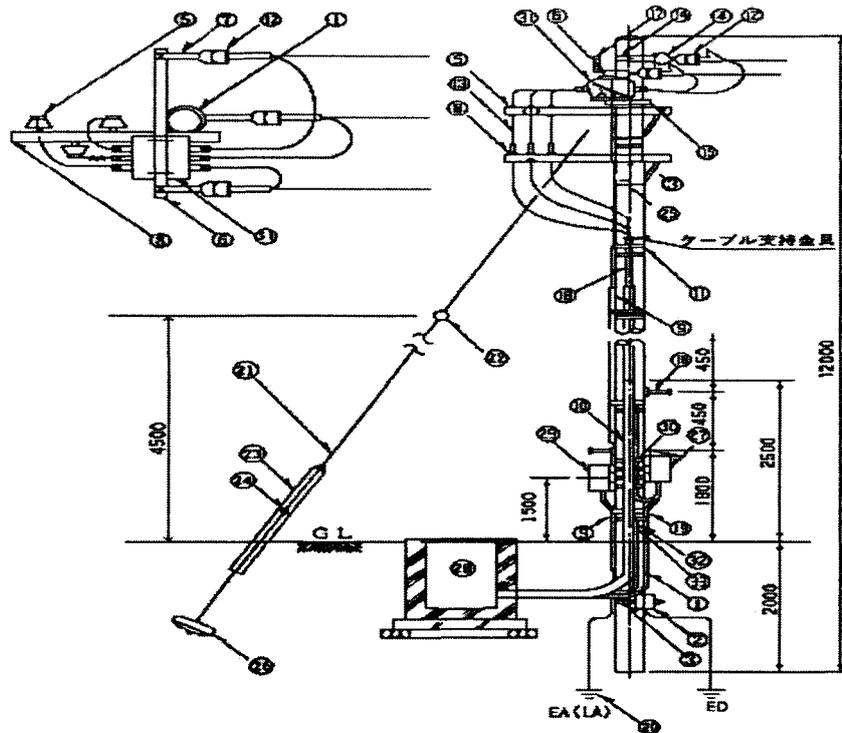
[備考] ボルトサイズ及び本数は、耐震を考慮して決めること。

1 7 接地極埋設図



[備考] 法面の掘削角度は、安全を確保すること。

1 8 引込柱装柱図



引込装柱図

番号	品名	規格	数量	備考
1	コンクリート柱	12m-19cm-350kg	1本	電力用
2	コンクリート根かせ	1200×240×170mm	1個	電力用、バンド付き
3	アームタイ	2.3×25×945	2本	
4	中線引留金具	320φ	1個	
5	高圧ピン碍子	普通形	3個	
6	腕金	1.8 ㊸	1本	
7	耐張ストラップ		6個	
8	腕金	1.2 ㊸	2本	
9	立上り電線保護管	VP	1式	接地用
10	ケーブル保護管	SGPW	1式	強電用
11	ステンレスバンド		4個	ケーブル固定用
12	高圧耐張碍子	普通形	6個	
13	高圧端末処理材		1組	屋外用
14	強力バンド	19cm	1本	
15	支線バンド		1本	シンプル含む
16	足場ボルト	CP用	16本	
17	避雷器	8.4kV	3個	
18	ケーブル		1式	
19	ケーブル保護管	厚鋼(防食テープ巻き)	1式	SOG制御用
20	接地材		1式	
21	支線	38sq(7/2.6)	1式	0.294kg/m
22	玉碍子	100×100mm	1個	
23	支線ガード	硬質ポリエチレン	1本	
24	巻付クリップ	シンプル用、玉碍子用	4個	
25	自在アームバンド		2個	
26	ステーブロック	700×350	1組	支線ロッド付
27	SOG制御箱		1個	
28	マンホール		1式	
29	接地端子箱	1P	2個	合成樹脂製(EA用、ED用)
30	自在バンド		10個	保護管固定用
31	高圧気中開閉器		1台	
32	ケーブル保護管	SGPW	1式	予備(強電用)防水キャップ付き
33	ケーブル保護管	厚鋼(防食テープ巻き)	1式	予備(弱電用)イントラシキップ付き

- [備考] (1) 軟弱地盤では、ポール底板を設ける。
- (2) 接地極には、接地理設標を設ける。
- (3) 避雷器用接地は、D種と別に接地端子箱を設ける。
- (4) 足場ボルトは、地上2mまで取り外しておく。
- (5) 予備配管には、雨水浸入防止キャップを取り付ける。
- (6) 引込ケーブル等の立ち上げは、ケーブルを保護する材料を用いて堅固に取り付ける。

1.9 盤構造及び付属器具一覧

	板厚 (mm以上)										付属器具				
	側面	底	屋根 (屋外)	天井	仕切	扉	遮蔽	支柱 (スタンド)	ベース (スタンド)	前面	扉 ストッパ	照明 (DS付)	保守用 コンセント AC100V	電話 ジャック 238B	防湿用 ヒータ (カーテ付)
2.2.2		2.3	1.6	2.3	1.6	1.6	3.2	1.6			①	○	②	③	
2.2.3		2.3	1.6	2.3	1.6	1.6	3.2				①	○	②	③	
2.2.6		2.3	1.6		1.6	1.6	3.2				○	○		③	
3.2.3		2.3	1.6		1.6	1.6	3.2				○	○	②	③	
3.2.4		2.3	1.6		1.6	1.6	3.2				○	○	②	③	
3.2.5		2.3	1.6		1.6	1.6	3.2				○	○	②	③	
4.2.1		2.3	1.6		1.6	1.6	3.2				○	○	③	③	
4.2.2		2.3	1.6		1.6	1.6	3.2				○	○	③	③	
4.2.3		2.3	1.6		1.6	1.6	3.2				○	○	③	③	
5.2.1	屋外	2.3	1.6	2.3		2.3			3.2	6.0	①	○	○	③	○
	屋内	2.3	1.6		1.6	2.3			3.2	6.0	○	○			④
5.2.2		2.3	1.6		1.6	1.6	1.6				○	○			
5.2.3		2.3	1.6		1.6	1.6	2.3				○	○		③	
5.2.4		2.3	1.6		1.6	1.6	2.3				○	○		③	
5.2.6	屋外	2.3	1.6	2.3		2.3			3.2	6.0	①	○	○		○
	屋内	2.3	1.6		1.6	2.3			3.2	6.0	○	○			④
6.2.13	屋外	2.3	1.6	2.3		1.6	1.6				①	○	○		○
	屋内	2.3	1.6		1.6	1.6	1.6				○	○			④
7.2.1		2.3	1.6		1.6	1.6	1.6				○	○			
		2.3	1.6		1.6	1.6	2.3			3.2		○		③	
7.2.2		2.3	1.6		1.6	1.6	2.3					○			
		2.3	1.6		1.6	1.6	2.3			3.2		○		③	
7.2.3		2.3	1.6		1.6	1.6	2.3					○			
		2.3	1.6		1.6	1.6	2.3			3.2		○		③	

(注) 本表は参考であり、盤の設置状況及び維持管理上の必要に応じて、承諾図書で決定する。  
 ( ) 内の数値は、本編に記載されていない数値で、参考値である。

- ①：屋外盤は、オートストップとする。
- ②：列盤に1個とする。(屋外盤のみ)
- ③：地下階設置盤のみとし、列盤に1個とする。
- ④：煙気の多い場所に設置する場合、取り付けるものとする。